

コア業務純益 最高

大垣西濃信金、4.1%増

3月期

大垣西濃信用金庫(大垣市)

増益だった。

が18日発表した2026年3月期決算は、金利上昇による貸出金や有価証券などの利息が増加し資金利益が増え、本業の収益力を示すコア業務純益は前期比4・1%増の21億5600万円で過去最高となった。売上高に当たる経常収益は64・7%増の155億7900万円で過去最高。含み損のある国債など有価証券の処分を進めて売却損を計上したため、実質業務純益は30億1800万円の赤字となったが、株式売却益を計上するなどし、純利益は8・9%増の17億1300万円を確保、3期連続の

期末貸出金残高は住宅ローンが好調だったことなどにより、4・4%増の3826億600万円で過去最高。期末預金残高は普通預金が減少し、1・1%減の7978億7900万円。

財務の健全性を示す自己資本比率は0・53%低下の14・11%で、国内基準の4%を大きく上回っている。

金融再生法ベースの不良債権比率は0・61%改善の3・27%だった。27年3月期の予想は公表していない。

同日開いた通常総代会では、大垣市中心部の中央支店郭町出張所を10月2日限りで廃止し、同支店に統合

する定款の変更が承認された。同出張所は1963年に郭町支店として開設、66年に現在地へ移転し60年間営業してきたが、建物の老朽化に伴って取り壊す。跡地利用は今後検討する。